

『教育の原点』 ～ 『何を学ぶか』 VS 『誰に出会うか』 ～

2025 年 4 月 3 日 新渡戸稲造記念センターに寄り、順天堂大学に向かう。この度、順天堂大学保健医療学部の対面講義『病理学概論』 & 『がん医療科学』、それぞれ 8 コマの授業を依頼された。

- ・『病理学概論』理学療法学科 2 年生 (4 限/14 時 50 分～16 時 20 分)
- ・『病理学概論』診療放射線学科 2 年生 (4 限/14 時 50 分～16 時 40 分)
- ・『がん医療科学』診療放射線学科 2 年生 (5 限/16 時 30 分～18 時 00 分)

教科書については以下の通りでございます。

- ・病理学概論『カラーで学べる病理学』
- ・がん医療科学『がん細胞から学んだ生き方』

【『病理学』とは、病気の根幹を追求しようとする『the study of the diseased tissues』である。『広々とした病理学』とは、『病理学には限りがないことをよく知っていて、新しいことにも自分の知らないことにも謙虚で、常に前に向かって努力しているイメージ』（菅野晴夫先生:1925-2016 の言葉）】である。

【『がん細胞から学んだ生き方 ～ 『ほっとけ 気にするな』のがん哲学 ～』（2021 年 へるす出版発行）の『おわりに』】「1919 年パリ講和会議が開催されている頃、『スペインかぜ』がフランスでも猛威をふるっていて、パンデミック（世界流行）で、感染者 6 億人、死者 4,000 万～5,000 万人にも達したと推定されている」と、以前に聞いたものである。そのとき、新渡戸稲造(1862-1933) はパリにいて、その後、国際連盟事務次長に就任している。トーマス・カーライル(Thomas Carlyle、1795-1881) の影響を受けた新渡戸稲造は、『common sense(社会常識)を備えもった柔軟性のある人格者』と謳われている。『コロナ時代の生き方』が問われている現在、『新渡戸稲造なら、何と語るのでしょうか？』の静思の日々である。『やるだけのことはやって、後のことは心の中で、そっと心配しておれば良いではないか。どうせなるようにしかならないよ』（勝海舟 1823- 1899) の言葉】と記述したものである。

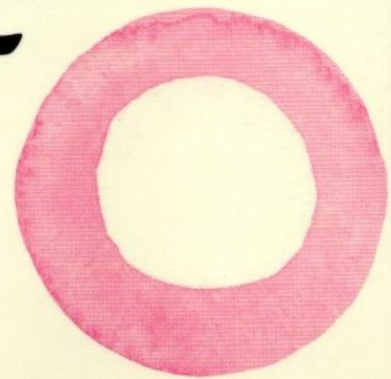
【『何を学ぶか』も大事だが、それ以上に『誰に出会うか』がもっと大切である】が『教育の原点』であろう！

がん細胞 から学んだ 生き方

「ほっとけ 気にするな」の
がん哲学

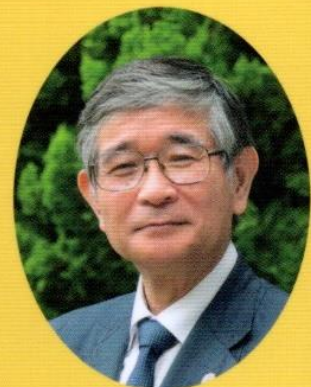
樋野興夫

順天堂大学名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園理事長



がん細胞で起こることは、 人間社会でも起こる

病理医として顕微鏡でがん細胞を覗いてきた筆者が、ミクロの世界の生命現象と人間社会というマクロの世界を考える新しい領域として「がん哲学」を提唱、医療と患者の隙間を埋めるべく「がん哲学外来」を開設した。メディカルカフェも全国に展開され、患者と家族の交流の場となっている。



へるす出版